

別紙

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

カルビー株式会社 広島工場

(2) 事業所の所在地

広島県 廿日市市 木材港北 16-9

(3) 業種

ビスケット類・干菓子製造業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成18(2006)年度を基準年度とし、平成28(2016)年度から令和2(2020)年度までの5年間とする

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況
《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量(a)	目標年度 上段：見込量(b) 下段：削減率(c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成18年度	令和2年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度
エネルギー 起源CO ₂	8,826	7,327 -17.0	8,482 3.9	8,915 -1.0	9,709 -10.0	9,689 -9.8	9,508 -7.7
非エネルギー 起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類				278	2,413	1,253	230
温室効果ガス 実排出量総計	8,826	7,327 -17.0	8,773 0.6	9,193 -4.2	12,122 -37.3	10,942 -24.0	9,738 -10.3
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価	エネルギー使用量(原油換算)は、18年度[4,308k1]に対し2年度は[4,656k1(+8.1%)]と、増加、生産量の増加傾向により、基準年および前年度に対し排出量は増加。 (参考：平成18年度を100としたときの、令和1年度の生産量=155) ※製造冷却設備の腐食急進機器の更新にてフロン類は減少(令和1年に更新実施)						

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：(以下は参考値 単位：t-CO₂/生産量(t)，削減率(%))

温室効果ガスの種類	基準年度の実績(a)	目標年度 上段：目標(b) 下段：削減率(c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成18年度	令和2年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度
エネルギー 起源CO ₂	0.4261	0.3186 -25.2	0.3498 17.9	0.3380 20.7	0.3122 26.7	0.3035 28.8	0.2935 31.1
非エネルギー 起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
温室効果ガス 総排出量			0.0120	0.0105	0.0776	0.0393	0.0071
エネルギー消費 原単位(原油換 算k1/生産重量)	0.2080	0.1394 -33.0	0.1559 24.5	0.1511 25.0	0.1420 27.4	0.1430 31.7	0.1409 32.3
実績に対する 自己評価	参考値として原単位を記入。原単位は前年比微減(良化)し、CO ₂ 排出も減少した。 電気(中国電力)のCO ₂ 排出係数が低下する傾向だが、平成18年度の0.555よりは高い (令和2年度は0.561、+1.1%)再生可能エネルギー電力の増加により減少傾向にある						

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	都市ガスの使用量を 13%削減 (R2年度目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・GHP空調機の更新 (R3年度で100%完了) ・乾燥機の省エネ改善 ・製造加熱蒸気量の削減 ・ボイラーの更新 (R1年度で100%完了) ・排熱回収装置の導入 ・燃焼装置等の適切な維持管理
2	電気使用量の削減	電気の使用量を 3%削減 (R2年度目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・GHP空調機の更新 ・インバータ制御エアコンプレッサの追加導入 ・乾燥機の省エネ改善 ・圧縮エアのプロア化 ・LED等の省エネ照明器具への更新 (R3年度で100%完了) ・不要時の設備停止の徹底 ・設備の適切な維持管理
3	生産効率の向上	エネルギー原単位を低減して 都市ガスと電気の使用量削減に 寄与する	<ul style="list-style-type: none"> ・設備稼働率を高くして生産する (まとめ生産で、軽負荷生産をしない)
4	メタン及び一酸化二 窒素排出量の削減	メタン及び一酸化二窒素排出の 防止	<ul style="list-style-type: none"> ・ボイラー等燃焼機器の適正管理
5	フロン類排出量の削 減	フロン類排出の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・フロンガス使用設備の更新促進 (R1年度から順次実施中) ・設備更新時の低係数ガスの採用

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み (環境価値の活用等)

	種類	合計量
1	該当なし	
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
	廃棄物排出量の削減	コピー用紙使用量を30%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・裏面利用、会議配付資料廃止等 ・分別収集及び資源化の徹底
	リサイクル率の向上	リサイクル率を99%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル品の全品回収 ・廃棄物のリサイクル製品化
	その他		<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献活動の推進

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。